

「地名」は生きている言語の化石——文化遺産。
明治末から昭和終戦後までに刊行された稀覯文献を復刻。

近代地名研究資料集

全6巻 池田 末則編・解説



クレス出版

地名研究資料の出版について

奈良・橿原市住居表示審議会委員（文博）
日本地名学研究所所長

池田末則

地名の発生は人間の言語生活と同時であることから、地名は生きている言語の化石―文化遺産といっても過言ではない。

日本文化の発祥地たる奈良県（大和国）の地名は、記・紀・万葉など、わが国最古の文献に数多く残されてきた。古来、「異なる苗字称号の大方は郷里の地名なり」と伝え、「地名と姓氏は一体のもの」とする論もある。姓氏の殆どは地名に因縁しているといえる。飛鳥井・葛城・高市・曾我・柿本・阿部・菅原・藤原など、大和の地名↓人名↓地名の図式の成り立つ例も少なくはない。和銅六年（七一三）の官命によって、地名には好字を、あるいは二文字化することになった。

地名学の研究は、古風土記にもみられたように、現在の考古学以上に関心をもち、一つの有力な方法として、地名によって古代史の解明を試みられていた。むしろ、地名無くして歴史は語られなかった。

さきに柳田国男は、「地名が千年以上の治乱盛衰を貫いて、切れ間もなく生きて働き続けてきた実例を、大和のように顕著に又数多く持っている地方は、内外を通して稀なのである。将来、地名研究の新機運が大和の地に興らんことを期し念じている。大和の地名は興味ある実験題目である」と述べられた（『定本・柳田国男集』第二〇巻）。柳田の文章に鼓舞された中野文彦（奈良県初代教育委員長・『校本・風葉和歌集』著者）は、一九四一年、「日本地名学研

究所」を創設、学術機関誌『地名学研究』を公刊、関係文献の調査、地名の発生時期、用字の改変、伝承過程など、地名文化の法則的な事象の研究に努めてきた。研究所の賛同・会員には柳田国男・滝川政次郎・新村出・金田一京助・知里真志保・一志茂樹・鏡味完二・小栗忠七・野間光辰・宮本常一・W・A・グロートス・末永雅雄・山田秀三・中村直勝・松尾四郎らの諸先学を加え、同好者三百余名をかぞえた（一九五九）。しかしながら、現在、斯界では地名研究に対しては、余りにも狭量である。それは日本の学問の貧困を示すものであるが、「地名研究会」の地道な調査グループが、全国的に漸次組織されつつあることは欣ばしい現象である。

今や日本は全国的に市町村合併問題が惹起し、一地名の制定にも異論百出、その結末は極めて容易ではない。本年四月、奈良市に合併した梅溪の名所「月瀬村」には近世以来、数多くの文人墨客が来遊・紀行している。かつては頼山陽・斎藤拙堂・梁川星巖・篠崎小竹・川路聖謨・松浦武四郎・近藤芳樹・藤沢南岳・天田愚庵・富岡鉄斎・伴林光平・山県有朋・長塚節・田山花袋・大町桂月・永井荷風・橋本関雪・佐々木信綱・金田一京助・谷崎潤一郎ら、二百余人に垂んとする有名人は、「月瀬」の村名に思いを寄せ、「月ノ瀬」「月ヶ瀬」「五月川」などの詩文や墨跡を遺した。地名の風土と文化性に異常な関心を示した一例にすぎない。

例えば、明治時代の地名辞書・研究書の類は、富本時次郎の大著『帝国地名大辞典』上・下巻、堀田璋左右の『日本歴史及地理要覧』、萩岡良弼の『日本地理志料』、吉田東伍の『大日本地名辞書』、喜田貞吉の『地名研究について』など、いずれも一九〇〇～五年、時を同じくして数多くの上梓をみている。明治先学が残した全国的規範の、先駆的業績にはまことに敬服すべきものがある。

したがって、地名研究そのものが独立した「地名学」として、総合的な社会的地域科学であるといえるのではなからうか。この機に明治以来の、先人が残した地名研究の成果を再吟味する必要を痛感し、入手困難の稀覯文献の復刻を企画、『地名研究資料』の続刊をみるにいたった。地名学研究の進展に夢を託してやまない。

第1巻

日本歴史及地理要覽

堀田璋左右編/明治36年/日本地理歴史研究会
(内容) 皇室・公家・武家・官職・国郡・社寺・交通・名蹟・雑の九項目に分かれ、特に国郡の部には延喜時代の五百九十郡、延喜以後の郡の廢置などについて詳細に網羅している。

第2巻

帝国地名大辞典 上

富本時次郎編/明治36年/又間精華堂
(内容) 全国一覽的に、名勝古蹟・古戰場・城址・山陵・墓碑の五項目に分類し、五十音毎に編纂。末尾に項目別の字面索引を付している。

第3巻

帝国地名大辞典 下

富本時次郎編/明治36年/又間精華堂
(内容) 全国一覽的に、港湾・岬角・島嶼・海洋・暗礁・駅路・鉄道・神社・寺院の九項目に分類し、五十音毎に編纂。末尾に項目別の字面索引を付している。

第4巻

大日本市町村案内

大類哲夫著/昭和11年/人事興信所出版部
(内容) 全国市町村別に歴史・地誌・民俗・文学・名所旧跡、あるいは名物・俚謡・人口・戸数・官衛・税務・登記学校などを網羅、巻末に総索引を付している。

第5巻

日本地名研究

アイヌ語より
(内容) 日本地名研究案内、地名解釈の鍵
(内容) 江戸以前の東京と関八州、江戸以前の東京、地名の新研究、北海道樺太地名考

第6巻

町村名の研究

小栗忠七著/昭和28年/東京日日新聞社
(内容) 著者は早くから地名について研究し、終戦後、日本を再建するために、まず市町村の一大再編成する必要を提唱。主に用字と発音について、実例を中心に解説。

名勝古蹟



安樂行院址 京都府山城國京都市上京區粟田町北にて平安神社の南に、舊藤原其相の山荘にて、清和天皇此に御し後醍醐寺を創す、現に二條筋廣道の西に四尊寺の字存すなり、寺址に遺蹟を稱するものあり、こは平家物語に、平治元年の亂に義朝亦遁名を得て鼻首せられ、此に葬るゝとあるもの、是乎、又保元物語に、保元々々六條御所爲義朝敗れ、東走せんとて病みて行く能はず、黒谷に抵り薙髮したるを、嫡子義朝々命已むを得ず

粟田院址 京都府山城國京都市上京區粟田町北にて平安神社の南に、舊藤原其相の山荘にて、清和天皇此に御し後醍醐寺を創す、現に二條筋廣道の西に四尊寺の字存すなり、寺址に遺蹟を稱するものあり、こは平家物語に、平治元年の亂に義朝亦遁名を得て鼻首せられ、此に葬るゝとあるもの、是乎、又保元物語に、保元々々六條御所爲義朝敗れ、東走せんとて病みて行く能はず、黒谷に抵り薙髮したるを、嫡子義朝々命已むを得ず

有栖川殿址 京都府山城國葛野郡下嵯峨村に在り、有栖川公は齋院のおけしませ本院の傍を流る、小川なり、應永中伏見宮の祖大通院榮仁親王、後崇光院貞成親王此に御し有栖川殿と云ふ、榮仁親王は、崇光帝の御子にして、應永十年斯波義重の嵯峨有栖川の山荘に移す、二十三年薨す年六十六、其の子貞成親王即ち、後崇光院なり、

在原業平宅址 京都府山城國京都市上京區御所八幡町なる御所八幡宮の西に、

名勝古蹟 あ

六 交 通

第一 鎌倉時代の東海道驛名(近江美濃を経て)

Table listing various locations and routes along the Tokaido, including 野路, 篠原, 鏡, 小脇, 小野, 箕浦, 野上, 垂井, 青波賀, 笠縫, 黒田, 小熊, 下戸, 萱津, 矢作, 豊河, 橋本, 引馬.

第4巻 大日本市町村案内

Large table listing municipalities (市町村) in the region, including 奈良市, 磯山, 山, 生駒郡, and various smaller towns and villages.

第5巻 日本地名研究

ASAMA-YAMA (長野縣)

淺間山

此の名稱は「底なし山」の意であります。即ちAsamaは「底なし」で、yamaは「山」で、「底なし山」となります。之は淺間山の噴火口が余りに深く、底なきが如く見えるため付けたる名稱であるか、又再三噴火するところから、「底知れぬ」と言ふ意より付したるなりや不明なるも、何れの點から考へても、Asama-yamaは當を得たる名稱でありませう。

(参考) Dobrotworskij著(1875) アイヌ、ロシア語辭典にも Asamaは「底なし」と記されてあります。

江戸以前の東京と關八州

三四

今樺太から九州に亘る地の「灣の神と灣の山」に就いて調べて見ることにする。模範的大きなものを上げることとする。

鶉城	ウシオロ、灣内	樺太西海道
有珠	ウスコタン、灣村	北海道噴火灣
恐山	ウスオロ山、灣頭山	青森大港
牛久	ウスケン、灣の岸	茨城牛久沼
白井	ウスイ、灣頭	茨城筑波山下
牛込	ウシコメ、灣頭の所	東京牛込
三田	ムイタ、灣頭	東京芝
牛島	灣の島	東京本所
忍	オシ、灣	埼玉熊谷
白井	ウスイ、灣頭	群馬碓氷
確氷	ウスイ、同	同
吾妻	アツイムイア、灣頭	同
前橋	ウモイバシ、灣頭	同、昔は厩橋と書く
牛久	ウシク、灣岸	千葉市原郡
鶴ヶ岡	モイツルのモイが消略	神奈川
下田	シモイタ、雄大なる灣	静岡伊豆
宇佐美	ウシアモイ、靜な灣	静岡伊豆
三保	ムイホ、小灣	静岡清水
舞坂	モイサンカ、灣下る岡	濱名湖の出口
三方原	ムイカタ、灣の上手の原	静岡濱名湖
三重	ムイ、灣	伊勢灣
宇治	ウシ、灣	三重縣山田
三井	ムイ、灣	近江三井寺灣
伏見	フセモイ、吹き出す(水)灣、川から灣に水を注ぐ場所を云ふ此の形他に多くある	

江戸以前の東京と關八州

三五

三 地名とその由来

既墾地は過去に於て、人との密接な交渉があったのであるから、必ず地名が字名があるべき筈である。殊に明治の改組に當つては「各町村此等の小區分を定めざれば、丈量に地押に帳簿調製に諸般取扱上甚だ不便なるを以て、先ず之を定め、土地の整理を爲さざるべからず」と令しているのである。それで既墾地と未墾地、國有と民有の別なく、片々端から字名を改定又は新設したので、現在では國土は、字の一大集團だとも言えるのである。だからどんな些細な字名でも、その附定の由来を、必ず持つてゐる筈である。一例を挙げれば、静岡縣の小字に「養味噲」と云うのがある。古老小林清次郎氏の話によると、役所から字名をつけて、字限地引繪圖を提出するようにと令達されたが、さて何と云う名前がよいか、さっぱり見當がつかず、それがため何回寄り合をしても議が纏らず、役所から再三再四督促を受けても決らないので、遂に官員が出張して代表者を集め「早く養とでも味噲とでもつけちまえ」と云われて、「へエ、それではそう致します」と返事をしたので、養味噲と書いて、クソツッコと言ふ名が附いたと云うことである。これを聞くと、名をつけることが、どんなにむづかしいことであるか、又當時如何に困難、苦惱をしたかが察せられる。しかしこのような字名は、土地の特質なり、事情なりを表現してゐるものではないので、當然改むべきであろう。また千葉縣安房郡佐久間村では、從來あつたであろう地名を廢して、大字イ、大字ロ、大字ハと、いろは順につけた。一體イと云う言葉に、どういふ意味があるか。その無意味なことは一、二、三の數字と異ならないのである。それがため後には不便になつたと見えて、今では地名字典に、イ(佐久間下)ロ(佐久間中)ハ(奥山)ニ(大崩)としてある。また兵庫縣有馬郡藤村大字下相野の小字に、文明田、開化田、敬田、神田、愛田、國田があり、又他の小字に、明田、治田、八田、年田、天田、地田、人田がある。その頭字をならべると「文明開化敬神愛國」となり、今一つは「明治八年天地人」となる。これは昔の國名の「志摩之加賀、周防止駿河、美濃、尾張」を、まねたものかも知れないが、餘程好事家の苦心の作と思われ、しかしその一つ一つに何の意義もないのである。殊に神田の如きになると、その昔神社の社領地、或は神社に奉獻する米作田と誤られる處が充ち分ある。とにかく我國の建國は極めて古いで、現在では理解が困難乃至は無意味となつた地名も少くないのである。それは口から耳え傳えられたものが、漢字の渡來によつて、音をそのまま漢字に充て簞めたもの、訓に直したものの、更に假名ができるに及んで、假名書きしたものなど種々様々である。従つて元の意義とは全く異つた意義に解釋されがちである。一例を挙げれば、鶉城地名選

近代地名研究資料集 全6巻

池田 末則 編・解説

A5判/上製函入/クロス装 揃定価107,000円(税別)

- 第1巻 日本歴史及地理要覧 定価12,500円(税別) ISBN4-87733-273-1
第2巻 帝国地名大辞典 上 定価20,000円(税別) ISBN4-87733-274-X
第3巻 帝国地名大辞典 下 定価26,000円(税別) ISBN4-87733-275-8
第4巻 大日本市町村案内 定価30,000円(税別) ISBN4-87733-276-6

●第1巻～第4巻 平成17年6月25日刊行 ISBN4-87733-277-4(セット)
第一回配本 全4巻 揃定価88,500円(税別)

- 第5巻 アイヌ語
より見たる 日本地名研究 定価11,000円(税別) ISBN4-87733-278-2
第6巻 アイヌ語
より見た 日本地名新研究 定価 7,500円(税別) ISBN4-87733-279-0

●第5巻・第6巻 平成17年8月25日刊行 ISBN4-87733-280-4(セット)
第二回配本 全2巻 揃定価18,500円(税別)

地名研究資料集 全五巻

池田 末則・鏡味 明克・江端真樹子 編集・解説

- 第一巻 日本 定価20,000円(税別) ISBN4-87733-184-0
第二巻 大和国 一 定価13,000円(税別) ISBN4-87733-185-9
第三巻 大和国 二 定価14,000円(税別) ISBN4-87733-186-7
第四巻 大和名所図会ほか 定価21,000円(税別) ISBN4-87733-187-5
第五巻 万葉集 定価22,000円(税別) ISBN4-87733-188-3

揃定価90,000円(税別) ISBN4-87733-183-2(セット)

地名伝承学論 増訂

池田 末則 著 定価12,000円(税別)

奈良地方の古代地名を発掘し、地名の起源を論ずる大著。

全国市町村便覧 全5巻

広瀬 順皓 編・解説

- ①全国市町村便覧 大正二年版
②全国市町村便覧 大正七年版
③全国市町村便覧 大正十四年版
④全国市町村便覧 昭和十年版
⑤全国市町村便覧 昭和十六年版

揃定価90,000円(税別) ISBN4-87733-193-X(セット)



株式会社

クレス出版

〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町14-5 メローナ日本橋

☎03-3808-1821 ☎03-3808-1822 <http://www.kress-jp.com/>